

第四回印東太郎賞 授与式・受賞記念講演

日時： 2016年10月8日(土) 16時30分～18時

場所： 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学三田キャンパス南校舎1階 411教室

(事前申し込み不要、参加費無料)

受賞者： 本田秀仁氏(東京大学大学院総合文化研究科、日本認知心理学会会員)

演題： 判断と意思決定から人間のクセを知る

「印東太郎賞」設立の経緯

印東太郎(いんどう たろう)慶應義塾大学名誉教授・カリフォルニア大学名誉教授

1923年生まれ、1945年慶應義塾大学文学部卒業後、同大助手となり、1973年まで同大教授。

その後、カリフォルニア大学アーヴァイン校教授となり、2007年米国で死去。

没後、遺言に基づき慶應義塾大学文学部心理学研究室へ寄付がなされ、その寄付金を基金とし

て印東太郎賞が制定されました。この賞は印東太郎博士と関係の深かった日本色彩学会、日本基礎心理学会、日本行動計量学会、日本認知心理学会からの推薦を受けて、選考委員会が授賞者を決定するものです。

受賞者紹介

本田秀仁氏は、2014年4月から東京大学大学院総合文化研究科・植田一博研究室に特任研究員として赴任されており、認知心理学・認知科学およびその関連分野で精力的に研究を行っておられます。専門は意思決定科学であり、人間の判断・推論・意思決定の認知プロセスに関する研究を心理学的アプローチにより行っておられます。

本田氏はこれまで Memory and Cognition、Cognitive Science をはじめとした学術誌にて論文13編(国内誌6編、国際誌7編)を出版されています。これらの成果は、言語的な確率表現に基づく意思決定プロセス、人間が用いているヒューリスティック、またコミュニケーション行動など、高次認知に関するトピックが中心です。本田氏が行動実験・認知モデリングアプローチを中心とする理論・実証研究を行って優れた業績を挙げている点は、氏の研究の理論・実証が大変優れたものであることの証左であると考えられ、若手研究者の代表として高次認知研究を牽引していく存在になれることが期待されています。近年は食品認知や食行動科学分野においても高い成果を挙げておられ、今後は高次認知分野にとどまらない活躍も期待されます。

また、本田氏は複数の学会賞(日本心理学会優秀論文賞、日本認知科学会優秀発表賞、官能評価学会優秀発表賞、HCGシンポジウム2014優秀インタラクティブ発表賞)を受賞され、研究成果は各学会内においても高く評価されています。

(学会推薦文をもとに作成)